



生産者やJA職員がノベルティを配布して牛乳の消費を呼びかける

News 05 牛乳飲んで酪農支援 買い物客にノベルティ配布でPR

牛乳消費による酪農支援を目的に、6月1日の「世界牛乳の日」に合わせ、う宮〜などのファーマーズマーケット5店舗で、牛乳を使ったレシピやノベルティを配布しました。

う宮〜などでは、富士宮酪農部会の土井一彦部会長とJA職員が酪農の現状を伝え牛乳の消費を呼びかけながら、来店客に配布。店頭へのぼり旗やポスターを掲示するなど工夫を凝らし、酪農支援を呼びかけました。



相続発生前後の対応などを学ぶ支店長ら

News 07 組合員に寄り添った 相談体制の構築へ 相続相談実践研修を開催

職員の相続相談業務の実践力向上に向けて、本年度、副地区本部長や支店長、各地区金融課長などを対象にした相続相談実践研修を3回の段階別実施しています。

5月13日には第1回目の研修を実施。講師にJA全中JA全国相続相談・資産支援チームアドバイザーの上保貴彦さんを招き、組合員目線に立った相続相談の重要性を学びました。相談体制の強化に向けて、現場で実践できるスキルの習得を図っていきます。

News 04 地域に根ざした活動で表彰 JA共済特別優績表彰、 全国優績表彰・優秀賞を受賞



JA共済優績組合表彰式(左)と全国優績表彰(右)

令和7年度JA共済優績組合表彰式が5月14日に東京都で開かれ、当JAが特別優績表彰を受賞しました。同表彰は、今回で3回目の受賞となり、今後も皆さまに寄り添い安心をお届けしていきます。

また、5月27日のJA観光推進協議会全国会議で、当JAが令和7年度全国優績表彰・ふれあいツーリズム部門で優秀賞を受賞。年金友の会会員を中心としたツアーが、JA事業・活動の活性化や仲間づくり、組織基盤強化につながるとして、高く評価されました。

News 06 畜産後継者を支援 暑熱対策講演会を開く

JAは畜産経営の継承に向けて、「畜産後継者集いの会」を編成し、後継者を支援しています。

本年度は、6月9日に長泉町の経済連畜産センター東部駐在で県富士農林事務所の佐藤克昭さんを講師に招き、暑熱対策講演会を開きました。三島函南、伊豆の国、なんすん、富士宮地区の8人の畜産後継者が参加し、牛舎環境のポイントなどを学びました。

JAは今後も畜産後継者と積極的に意見交換し、支援していきます。



牛舎の暑熱対策のポイントを学ぶ



改良したチェックシートを使って生産者(奥)と農薬の保管状況を確認

News 01 食の安全・安心を強化・徹底へ 全戸訪問で農薬の適正使用を確認、点検チェックシートを改良

食の安全・安心に対する意識向上と農薬関連事故の未然防止を目的に、生産部会員やファーマーズマーケット出荷会員を対象とした全戸訪問を実施しています。

本年度は「農薬使用・保管チェックシート」を改良し、確認項目を12項目から20項目に拡充。農薬の保管状況や使用記録などをより細かく確認できるようにし、確

認精度の向上を図っています。

訪問では営農アドバイザーらが生産現場を訪れ、農薬庫や使用記録を確認しながら管理状況を点検。各項目を数値化し、改善が必要な箇所を見える化するとともに、チェックシートを2枚複写式にして生産者へ配布し、課題の共有と改善につなげています。

旬のお知らせは
他にもたくさん!
YouTubeでチェック



News 02 茶の魅力伝え消費拡大へ 「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」ケース購入で茶うどんプレゼント

5月1日から、「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」ケース購入者を対象に「茶うどん」を数量限定でプレゼントするキャンペーンをファーマーズマーケットや営農経済センターで行いました。

「茶うどん」は「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」の原料の沼津市、富士市、富士宮市、3地区の茶葉を使った粉末緑茶を練り込み、茶含有量6%で茶の爽やかな香りと風味が特長です。販売戦略課の担当者は「今後も県東部のお茶の魅力を伝えていきたい」と話しました。



沼津・富士・富士宮の茶葉を使った「茶うどん」

News 03 統一PRで販売促進 「とうもろこしマップ」制作

JAはトウモロコシの販促資材として新たに「産地リレーとうもろこしマップ」を制作しました。トウモロコシは、地区を横断して広域的展開を図る品目の1つで、主に三島函南地区、富士地区、御殿場地区で栽培。品目別振興計画において、産地リレー出荷に取り組んでいます。

トウモロコシを通じてJAふじ伊豆が一体となって「旬をつなぐ産地」の魅力を発信し、消費者に選ばれる産地づくりを目指します。

各地区のトウモロコシの特長や出荷時期などを掲載しファーマーズマーケットの売り場に設置





出荷にあたり生産者やJA職員が品質を確認

News 13 加熱調理用トマト「アイランドルビー」10周年 今期は8月上旬までに約3.5トン出荷

あいら伊豆蔬菜部会クッキングトマト部は、今期で加熱調理用トマト「アイランドルビー」の栽培10周年を迎えました。

今期も6月から出荷が始まり、8月上旬までに約3.5トンの出荷を見込みます。10年間で管内スーパーマーケットや地元の学校給食でも取り扱われるようになり、熱海市・伊東市特産として知名度と需要は年々増加しています。



サルビアなどの花で花壇を彩る部員たち

News 15 女性部が小学校花壇に花植え 地域貢献活動で実施

女性部伊豆太陽地区本部稲取支部は本年度から、東伊豆町立稲取小学校の花壇へ花の植栽を行っています。

花壇に花が少ないことに着目し、新たに始めた取り組みで、5月にはサルビアやマーガレットなどの花を1株ずつ丁寧に植えていきました。児童たちの植物の成長過程の学習や地域とのつながりを目指し、年2回実施していきます。

News 12 「するがの極」順調に生育 高品質生産に向け生育調査

JAは6月から9月にかけて、なんすん地区・三島函南地区管内でブランド米「するがの極」の生育調査を行い、高品質栽培に取り組んでいます。

6月18日には、なんすん営農経済センターの営農アドバイザーらが沼津市大平の3カ所のほ場を巡回し、生産者立ち合いの下、稲の草丈や分けつ数、葉色などを調査。生育は順調で、10月から新米の出荷が始まる予定です。



スケールを使って葉色を確認する生産者や営農アドバイザー

News 14 除草作業を減らし 生産者の労力軽減へ センチピードグラスを普及

御殿場地区営農販売課は、雑草抑制効果のある芝の一種「センチピードグラス」を本格導入し、普及を進めています。除草作業の労力を軽減し、熱中症リスクの軽減にもつなげます。

6月11日には、本年度施工希望の6人の水稻生産者の畦畔、合わせて45アールに、施工会社と共に種子の吹付作業を実施。随時巡回をして管理指導し、今後も普及を推進していきます。



施工会社の(有)だるま製紙所とJA職員が播種作業を実施



販売開始宣言でイオングループ関係者らに活動を紹介する宮澤竜司代表(奥)

News 09 ヤングコーンを 共同栽培、販売へ 箱根西麓のうみんずが資源の有効活用 「アップサイクル事業」として展開

三島市を拠点に活動する生産組織「箱根西麓のうみんず」とJAは本年度からヤングコーンの共同栽培を始め、6月下旬から販売を開始しました。

栽培には、イオングループから発生した食品残さを活用した堆肥を使い、「のうみんずのまだまだヤングコーン」という名称でイオングループ系列のマックスバリュ東海の店舗やみしまるかんで販売しています。

環境負荷の低減と地域農業の活性化につながる取り組みとして、持続可能な農業の実現を目指します。



講師(右)から剪定のポイントを学ぶ部会員ら

News 11 「う宮～な」おかげさまで18周年 記念セールイベントで大にぎわい

う宮～なは、オープン18周年を迎え5月23日・24日の2日間、記念セールを開催しました。

出荷会員の協力による「地物特価コーナー」や「スイカ解体(買いたい)deショー」、「店長とジャンケン大会」など、出荷者とJAがさまざまなイベントを企画し大にぎわいとなりました。今後も出荷者の農業所得向上と消費者に安全・安心、新鮮な地場農産物をお届けしていきます。

News 08 ミニトマトの価格安定へ 出荷量予測システムを開発中

伊豆の国果菜委員会とJA、矢崎総業株式会社は共同で、AIを活用した出荷予測システムを開発・導入に向けて取り組んでいます。

過去の出荷実績と気象データをもとに、AIが出荷量の傾向や気温の影響を考慮して1～14日後の出荷量を予測。JA販売担当者が出荷量の増減を把握し、需給調整や市場対応の迅速化を目指します。今後は実証試験を重ねながら導入を検討していきます。



AIの出荷量予測を確認する担当者と生産者ら

News 10 猛暑対策と高品質栽培学ぶ 富士地区梨部会が夏期剪定講習会

富士地区梨部会は8月に最盛期を迎える特産「富士梨」の高品質栽培に取り組んでいます。

5月14日には静岡県農林技術研究所果樹研究センターで剪定講習会を開催。摘果や芽かき、猛暑対策として葉を残す工夫や草生栽培による土壌管理などを学びました。熱心に講師に質問する参加者の姿が見られました。

店長とジャンケン大会など多彩なイベントを実施

